

育 鵬

進路特集号

天高育友会報号外
平成 27 年 8 月 31 日 発行
発行 県立天草高等学校育友会
編集 天高育友会文化広報委員会
印刷 ワタナベデザイン

今、進路選択の重要な時期

失敗や後悔のない進路を選択するために…

高校の3年間は、将来の職業を決めるうえで大変重要な3年間となります。
私たち保護者も、希望した仕事に就いている方、そうでない方々ですが、人生の選択の場面を振り返ると、「苦手科目を避けて進路を選択したが本当に良かったのか。もしもこの大学に合格していれば…」など高校時代の進路選択が

重要だったと今になって思います。

私たちが保護者は、わが子に、失敗や後悔のない進路を選択してほしいと望んでいます。

本紙は、学校・生徒・保護者が情報を共有し、天高生が今のようなことを学び、どんな選択が必要なのか、また、先輩保護者の経験談から天高生である我が子にどう向き合うべきか参

考にさせていただくことを願って編集しました。

9月1、2年生の進路選択の重要な時期でもあります。保護者向けに進路講演会も予定されていますので、是非参加され、わが子の良きアドバイザーとなってもらえることを願っています。

限られた時間を更に上手く使いこなして



2 学年主任
井上博登先生

夏のキャッチフレーズ「受験基礎力と記述力に目を向ける夏・2015」を掲げ、文武両道に励んだ夏休みも終わりを迎えました。
天草高校2年生の2学期は「受験勉強を始める」という難関の時期を迎えます。具体的には、前期夏季課外中に行なった「国英の受験基礎力と記述力のフレン」に従って、3学期までに「受験基礎力」を完成させます。また、国語50分、数学60分、英語70分、計180分の学習目標に30分の理社の学習を課します。2学期からは2年生が部活動や生徒会、様々な面でリーダーとして活動せねばならず、精神的、肉体的に逞しく成長することも求められます。今までの先輩方がそうであったように、限られた時間を更に上手く使いこなし、上記目標達成のために、生徒、家庭、学校が団結していきたくと考えますので、協力よろしくお願いします。

最後になりますが、大分県出身の社会教育家で女子教育に尽力された後藤静香(ごとうせいこう)氏の言葉を紹介して終わります。これは、多くの著名人に影響を与えた言葉であり、横浜高校野球部のグラウンドの壁にも刻まれているものです。
『第1歩』
十里の道の第1歩、千里の道の第1歩
同じ一歩でも覚悟が違う
三笠山に登る第1歩、富士山に登る第1歩
同じ一歩でも覚悟が違う
どこまで行くつもりか、どこまで登るつもりか
目標が、その日その日を支配する。
2年生にとって、受験勉強開始となる第1歩が今です。高い志と前に進む勇気と胸に、全員で大きな覚悟を持って、一歩を踏み出します。

「文理選択」が、将来の自分のあり方 生き方を考える第一歩



1 学年主任
谷脇 晋先生

高校入試が終わるや否や、「文理選択」という決断を迫られ、早くも2学期を迎えようとしています。この選択では大学受験の際に文系型・理系型のどちらで受験していくかのみならず、将来の自分のあり方、生き方を考える第一歩という側面が大きいと感じられます。文理の選択は、将来就きたい職業や、学びたい学問にも大きく関わってきます。現在の社会は文系理系の枠では説明できないほど複雑化し、幅広い知識やものの見方が求められます。同時に大学入試の仕組みや学部・学科構成もそれに対応する形で複雑化する現在、「数学が苦手なら文系」と科目の得意・苦手による決定では、真の文理選択とはいえません。自分の将来について親子会話のチャンスと捉えることが必要です。文系と言えは「文学部へ、その後「それに見合った就職先」というパターン化された方向ではなく、国語が好き」「文章を書くのが好き」「文字で人の心を動かしたい」「文学部でここの響きや創作の背景を学問的に探求する」等、興味関心のある得意分野から一歩ずつ掘り下げて今後すすむべき道を見通しながら選んでいけ

れば、子どもの頑張りもより具体化されイメージ化されていきます。多かれ少なかれ子どもは自分の得意・不得意を加味して文理の選択をしています。幼い頃から我が子が得意とする分野を最も理解しているのは保護者の皆様です。米ディーク大学の研究者であるキャシー・テビットソン氏は「2011年度にアメリカの小学校に入学した子ども達の65%は、大学卒業時には今存在していない職業に就くだろう」と話しています。世の中には無数の職業が存在し、今後更に業態の変化によって新しい職業が生まれることが予測されます。子どもに広い視野を持たせ、沢山の選択肢と具体的なアプローチの仕方を与えることが保護者、教師としての大切な役割の一つと考えています。
「〇〇は本当に友達が多いんだね。人に頼られる仕事に向いているかもよ。」と保護者の皆様と教師が子どもの普段の頑張りや、日常の言葉かけで未来の自己イメージへとリンクさせ、将来子どもと一人一人が輝く未来と繋がる「架け橋」を一緒につくりたいと考えています。

共に考える進路

保護者Aさん

私には、二人の子ともがいます。長女は目標としていた職業につき更なる夢に向かっていきます。長男は、大学の3年生で資格の取得等で日々夢に向かって頑張っています。

ここで我が子どもの進路・夢の実現のために考え行動した事が二つあります。

一つ目は、多くの経験をさせて、自分自身に合ったものを早く知ってもらう事でした。何万何千通りの進路の中から子どもたちは自分の価値観で進路を選択していきます。私たちの期待とは別の選択をする場合もあるかもしれませんが、私の場合は子どもの意思を尊重する事を大切にしました。

二つ目は、人として持つていなければならないものをしっかり教えること、特にコミュニケーションを通して社会のルールを知ってもらう事でした。

今、社会が求めている能力には、意欲・向上心・コミュニケーション能力があります。今家庭で、学校で、地域でしか学べないものを優先し身につけさせる事が今後の夢の実現に向けて子どもの力になると信じています。

基本は、家族の愛？

保護者Bさん

現在31歳の長女を頭に、2女3男計5人の我が家の宝物は、天草高校で学び、皆大学へすすみ、幼稚園教諭・高校教師・警察官・女性自衛官・現役大学生…。それぞれに頑張っています。

夫婦共働き、義父母、義祖母との同居で、毎日が慌しく子どもたちとゆつくり向き合う時間も少なく月日が流れてしまいましたが、家族・兄弟姉妹皆が、仲よく明るくいつも助け合い協力し合って、私自身も多忙ながら常に子どもたちのことを一生懸命思っていました。子どもたちは、12年間続けて天草高校に通いましたが、毎日のお弁当は冷食を使わず心こめて作り、吹奏楽、サッカー、女子バスケット、野球、演奏会、試合の時など、家族で応援に行きました。進路に当たっては、これといったアドバ

イスはしていませんが、熱心な先生方のご指導、先輩・兄弟からの情報等で、自分に

将来を考えた進路の実現を

保護者Cさん

我が子は三人とも、天草高校にお世話になりました。

それぞれ将来の目標が違ったので、大学の学部も全く異なりました。三人とも、自分からセンター試験を受けて進学すると言いい、受験を乗り切りました。第一希望でない

保護者の体験談

生徒の進路実現に向けて親子で情報を共有し、共に悩み、共に学ぶことに役立ててほしい…。



大学へ進学した子もいましたが、行った大学で楽しくやっています。

親としては、「人の役に立つ仕事をしなさい」と言ってきました。小さい頃から、人や自然に触れ合う体験や、いろいろな地方のよさや文化に触れる旅をさせてきました。中国では、平和の尊さも考えさせました。

高校時代に進路を考えさせたというより、今まで体験してきたことが、子どもたちに影響しているように思います。そして、三人は、自分の興味・関心・能力に合わせて、進学先を決定していききました。

ただ、三人とも自分のやりたいことを口に出していませんでしたので、両親も先生も、周りの人々も夢の実現に向けて、協力・支援することができたと思います。

やりたいこと(行きたい大学)を「口に出して言う」ことは、とても大切なことだと考えます。よき理解者・支援者が得られ、ベストとならなくてもベターな進路実現が

できると確信しています。
親は、迷ったときに相談にのることしかできませんでした。就職し、その後、自分がその仕事でどんなことをやるのかが大切だということも伝えてきました。
進路実現に向けて、有言実行を貫いてほしいと思います。

学習時間の定着は大きな実を結ぶ

保護者Dさん

今春、ようやく末っ子が卒業し、一息ついたところです。長女は地元の高校を志願しましたが、長男と二女の二人は大学進学を希望し本校へ入学しました。二人ともに地理的条件から寮生活を余儀なくされはしましたが、寮生活で得たものは自らの自信に繋がっています。わずか15歳で親元を離れての生活、団体生活で得たものの、親のありがたさ、寮生は一足早く社会への一歩を踏み出した意志との戦いをしてきたものと思っております。

今顧みますと、子ども3人ともに塾に行っていないませんが、よく頑張ってくれたと妻ともども感心しているところ。学校と塾の両立は中々できるものではありません。これまでの学校の面談でも「授業さまでの学校との面談でも「授業さまであれば塾に行く必要はない」と聞いていたけれど、正にそのとおりであったと思っています。また、1クラスであった中学校時代と違って変わり大所帯の中での競争心が養われたことや朝夕の課外授業で得たものも自信に繋がっており、最終的な進路選択は本人の意思を尊重しました。結果として2人とも3年生まで目標を下げることなく志望校に合格することができました。

「親の背を見て子は育つ」と申しますが、子どもが進路に向け努力している傍ら、親の働く姿を見せることも、子どもの努力する姿勢に繋がるものと思います。勤め人である私にとって子どもに見せるものはありませんが、休日は娯楽に走ることもなく畑仕事やボランティア作業など常に動いている姿、ともに頑張っている姿を自覚させているつもりです。

我が子にあっては、寮などで得た自信と学習時間の定着が志望校へ合格できた大きな要因であったと思っています。これまでお世話になった本校先生方に感謝申し上げ、在校生みなさんが志望校へ向かって奮起することを期待します。